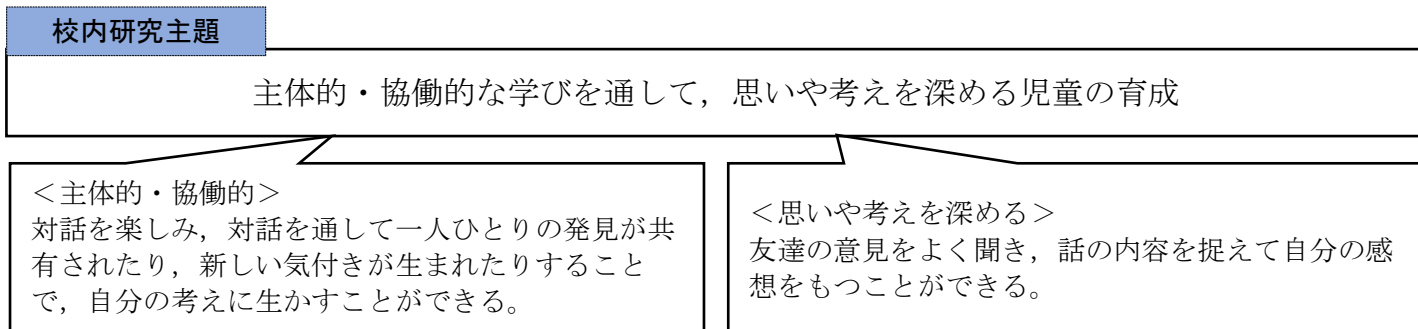


学習指導要領	教師の願い	児童の実態
学年の目標 (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	具体的な活動や体験を通して、次の2点ができるようになってほしい。 ① 自分との関わりから自分の町のよさについて考え、表現できるようになってほしい。 ② 友達との対話を通して、自分たちの町のよさに気付き、愛着をもってほしい。	相手のことを考えて、グループで協力しようとする姿が見られるようになってきたが、全員で協力して一つのものを作り上げるという経験が多くない。自分の意見を主張することはできるため、相手の意見を聞くことで、自分の考えをさらによりよいものとする経験を授業のなかで積み重ねていきたい。



目指す児童像(低学年)
対話を楽しみ、相手の考えを受け止め、自分の考えをもつ児童

仮説
自分たちの町のおすすめしたい所を探し、自分たちの伝えたいことを考える活動は、一人ひとりが自分の意見をもち意欲をもって話し合うことができるだろう。

研究主題に迫る手だて

(1)学習意欲を高めるための工夫

①単元設定の工夫

- ・普段生活している自分の町のおすすめしたい所を探し、友達に伝えるという目的意識をもった活動。
- ・カリキュラムマネジメントを意識した単元構想

②自己選択の機会の設定

- ・自分の伝えたいことを選び、伝えることができる活動。

(2)協働するための工夫

①グループ編成

- ・伝えたいテーマが同じ児童でのグループ編成

②グループの人数

- ・三人～四人の少人数での編成。

③高ニトーク

- ・相手の考えを受け止める取組。

④ヒントとなる掲示物

- ・詳しく聞くための掲示物（いつ、どうして等）

⑤短冊

- ・話し合いの話題の反映。思考の整理。

第2学年生活科学習展開案

令和3年7月2日（金）第5校時
杉並区立高井戸第二小学校 2年2組 32名
授業者 教諭 矢部 萌絵

1 単元名 「知ってる！？こんなこと こんなひと ～わたしたちの町さいはっけん～」10時間扱い

2 単元の目標

- ・学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然と関わりについて考えることができる。（生活）
- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて話し合うことができる。（国語）
- ・句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（国語）

3 単元の評価規準

生活科

知識・技能	町には働いている人や暮らしている人、生き物や施設がたくさんあることに気付くことができる。
思考・判断・表現	町について紹介したいことを見付け、短冊に表すことができる。 紹介した場所について、自分たちなりの方法で表し、友達に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	自分の住んでいるところに興味をもち、グループの友達の意見を聞きながら、町に親しみや愛着をもつことができる。 地域の様々な場所について関心をもち、町探検への意欲を高めている。

国語

知識・技能	長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を文や文章の中で使うことができる。
思考・判断・表現	話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて話し合うことができる。 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。

4 単元について（教材観 児童の実態）

（1）学習指導要領との関連

生活科の目標 学年の目標

（1） 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然と関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。

国語科の目標 第一学年及び第二学年の内容A（1）話すこと・聞くこと

エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。

(2)学習材観

本学習材では、いつも生活している「町」がテーマとなっているため、もう一度自分たちの地域に目を向け、改めて町のよさを発見できる設定となっている。

またクラスの友達に「伝えたい町のおすすめポイントはどこか」を一人ひとりが考え、同じテーマを選んだ児童で話し合うことができる。話し合いをする中で、友達の意見をよく聞き相手の考えを受け止めながら、自分と同じところや違うところに気付き、自分の考えに繋げていくことをねらいとしている。カリキュラムマネジメントを意識し、「高二トーク」や国語の授業で培ってきた相手の話を聞く力や、受け止める力を生かせるような学習材となっている。

単元の終末で実際に探検に行き具体的な体験をすることで、新たな発見、さらに調べてみたいことが出てくると考えられる。その気付きを二学期の「町探検」に繋げていきたい。

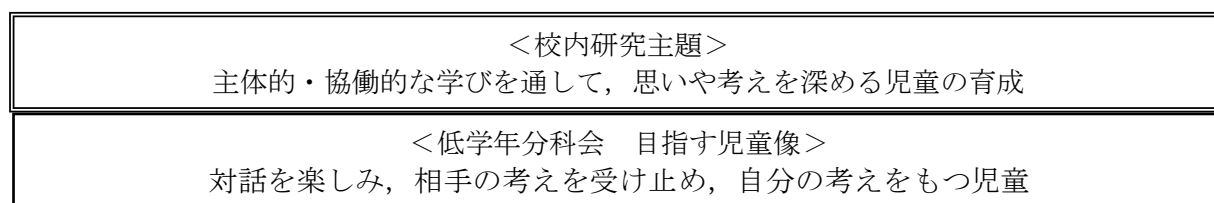
(3)学習者について

本学級の児童は一年生の時から、生活科の学習を通して「社会」に関わる経験をしてきた。一年生の時には通学路や近くの公園にあるものを調べに行き、自分たちの安全を守っているものがあることに気付いた。三学期には「家族笑顔大作戦」として家族の一員としてお手伝いをする経験をし、「暮らし」に関わる学習を行った。二年生になってからは学校探検を通して、「学校」という社会との関わりについて体験をもって学習した。一年生を学校探検に連れていく活動を通して、どうすれば一年生が分かりやすく、楽しく学校探検ができるかを考え、グループの友達と話し合い、協力しながら案内する部屋の紹介ポスターを完成させることができた。その際には、自分たちで役割を分担したり、観察することが苦手な友達に意見を聞いたりする児童の姿も見られた。みんなの知恵を出し合うことでよりよいものを作ることができるという成功体験を重ね、積極的に対話をしようとする態度を育てたい。

また、「教師に伝えたい」という思いから「みんなに伝えたい」という思いが芽生えてきていることから、生活科においても児童同士の交流の時間が増えてきている。自分の意見を友達に伝えることができるようになってきており、国語科で育んできた「話す・聞く」の基礎が他教科でも生かされていると感じる。

本教材ではこれまで国語科で育成してきた「話す・聞く力」を生かすとともに、相手の話を聞く力や、受け止める力をさらに育んでいきたい。

5 研究主題に迫る手だて



(1)意欲的に学習するための工夫

①単元設定の工夫

自分の町を題材にすることで、生活経験を振り返り「知っていることを言いたい」という思いから意欲的に取り組むことができると考えた。また、国語科の学習と組み合わせたカリキュラムマネジメントを意識し

た単元にすることで、国語の学習で学んだ対話の力を生かすことができる単元設定にした。

②自己選択の機会の設定

自分がクラスに紹介したいことは何かを自由に決めることで、「私はこれが好き。」「みんなにこれを紹介したい。」等の思いが現れ、話し合いや発表が活発になると考えた。

(2)協働するための工夫

①グループ編成

伝えたいテーマ毎にグループを設定することで、共通の話題ができ、話し合いが深まると考えた。

②グループ人数

グループの人数を少人数にすることで、発言がしやすく、全員が意欲的に参加できると考えた。

③高二トーク

自分の意見ばかり伝える児童が多いため、高二トークにある「お話しピンポンゲーム」などで相手の話を聞き、質問を返していく学習を行い、相手の話を受け止める力を育んでいる。

④ヒントとなる掲示物

国語の「あったらいいな、こんなもの」の単元では、相手の考えを詳しく聞くために、大事なことは何かを考えて質問する学習を行った。その際に出た質問の仕方を学級に掲示し、話し合いの中で活用していく。

⑤短冊

児童が考えたおすすめポイントを短冊に書き、話し合い活動を行う際に短冊を動かしながら思考を整理していくことができると考えた。また、個人で考えたものを黄色、グループで考えたものを緑色にすることで話し合ったことが分かりやすくなると考えた。

6 単元の指導計画(全10時間扱い)

時	目標	主な学習活動	評価基準（評価方法）
1 生活	単元の見通しを持つ。	・ 普段自分が遊んでいる場所をみんなに紹介する中で、町について興味をもつ。 ・ 「町」とはどんなところか考える。 ・ 単元のめあてを立てる。	【知・技】 町には働いている人や暮らしている人、生き物や施設がたくさんあることに気付くことができる。 （ワークシート）
		わたしたちの町のおすすめをみんなに伝えよう。	【主】 自分の住んでいるところに興味をもち、紹介したい場所を考えようとしている。（観察）
2 生活	自分が住む町について、自分が紹介したいことを、短冊に書くことができる。	・ どんな学習をしたいか話し合う。 ・ 前時のワークシートを元に、紹介したい場所を発表する。 （場所、人、生き物などで分ける） ・ 短冊に、自分が紹介することについて、友だちにおすすめしたい情報を書く。 ※国語の「メモをとるとき」で学習した箇条書きの方法を活用する。	【思・判・表】 町について紹介したいことを見付け、短冊に表すことができる。 （短冊）
3 本時 国語	グループで、クラスの人々に伝えるおすすめポイントを決めることができる。	・ 自分の町がもっと好きになるような発表になるよう、グループ内でおすすめする内容を話し合う。 例「児童館」 ・ 西宮中の近くにある。 ・ 友だちと遊べる。 ・ 学童の子とも遊べる ・ 遊び道具が沢山ある。 ・ 一人で行っても誰かに会える。	【思・判・表】 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて話し合うことができる。 （観察）（ワークシート）
4・5 国語	おすすめする内容を文章化し、グループで分担して発表の練習をすることができる。	・ グループで紹介する文を「はじめ」「なか」「おわり」で組み立てて書く。 ・ グループで分担を決め発表の練習をする。	【思・判・表】 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 （ワークシート） 【知・技】 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を文や

			文章の中で使うことができる。 (ワークシート)
6 生活	自分たちの町のおすすめをクラスの友だちに紹介することができる。	・グループ毎に町のおすすめを発表し、質問に答える。 ・質問をした人は、答えを聞いた後、一言感想を言う。	【思・判・表】 紹介したい場所について、自分たちなりの方法(クイズ、模造紙等)で表し、友達に伝えることができる。(観察)
7 生活	おすすめの場所を中心に学区を歩いてお互いに紹介した情報を確かめる計画を立てる。	・地図を見て、町にあるものを確認し、学級で見にきたいものを絞って決める。 ・探検に行くときに気を付けることを話し合う。	【主】 地域の様々な場所について関心をもち、町探検への意欲を高めている。(観察)
8・9 生活	通学路を中心に学区を歩き、久我山の町の様子に興味をもち、久我山の町のよさを考えることができる。	・学級で通学路を歩き、友だちが紹介してくれたことや新しい発見を確かめる。 ・事前に話し合ったルールやマナーを守って通学路を歩く。	【知・技】 町には働いている人や暮らしている人、生き物や施設がたくさんあることに気付くことができる。 (観察)
10 生活	単元のふりかえりをし、久我山の町に愛着をもつことができる。	・町を歩いた時の写真を見て、振り返る。 ・ふりかえりカードに久我山の町のよさを書いたり、単元全体を通して考えたこと、気付いたこと、さらに調べたいことなどを書いたりして、全体で交流する。	【主】 学習を振り返り、町に親しみや愛着をもつことができる。 (ワークシート)

7 本時の学習

(1) ねらい

聞きたいことを落とさずに聞き、クラスみんなに伝える「おすすめ」をグループで話し合うことができる。

(2) 展開

学習課程	主な学習活動	○留意点 ◆評価（評価方法）
1 前時の学習を振り返り、 本時のめあてを決定する。	・学習計画を確認し、前時に 決めたグループを確認する。	
クラスのみんなにつたえる久我山の町のおすすめすることを、話し合ってください。		
2 みんなに伝えたいことを グループで話し合う。 ①学習の流れを確認する。 ②話し合いをする。 ③2回目の話し合いをする。 （全体で共有したことを 生かしての話し合い。）	・教師の例示を見て、どのよ うに短冊を動かせばよい かを考える。 ・自分の書いたおすすめポイ ントの説明をする。 ・分からない所は質問した り、同じ意見は短冊を重ね たりしながら話し合う。 ・詳しく聞くための言葉を使 いながら、納得して話し合 いを進めていく。 ・短冊を動かしながら、思考 を整理する。	○整理しながら話し合いを行うことができるよ う、意見を整理する方法（同じ意見は短冊を重ねる・種類ごとに分けるなど）を伝える。 ○おすすめポイントについて話し合うことができ ているグループ（詳しく聞く言葉「いつ・ど こで・だれが・どうして・なぜ・どんな・どう いう・どうやって」を使っている。短冊を重ね るなどの工夫をしている。相違点や共通点に 気付くことができる等）を全体で共有する。 ◆話し手が知らせたいことや自分が聞きたいこ とを落とさないように集中して聞き、話の内 容を捉えて話し合うことができる。 【思】（観察）
3 学習の振り返りをする。	・話し合いで自分ができたこ とについて振り返る。	・詳しく聞く言葉（いつ・どこで・だれが・なに が・どうして・なぜ・どんな・どういう・どう やって）を使ったり、短冊を動かしたりして話 し合うことができたかを振り返るよう促す。

4 次時の学習の見通しをもつ。		◆話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 【思】(ワークシート)
------------------------	--	--

8 本時の手だて

(1)学習意欲を高めるための工夫

- ・ 普段生活している自分の町のおすすめしたい所を探し、友達に伝えるという目的意識をもった活動は児童の学習意欲を高めることに繋がっていたか。

(2)協働するための工夫

- ・ 短冊を使って話し合うことは、児童の思考を整理して話し合うことに有効だったか。
- ・ 詳しく聞くための質問の仕方についての掲示は、話し合いの中で生かされていたか。